

小説

『頼むから、ほっといてくれ』

桂望実／著 幻冬舎 2012

人生、どんな進み方があってもいいじゃないかって思わせてくれる本 (S.T.公務員 50代 女性)

『走れ、健次郎』

菊池幸見／著 祥伝社 2014

ひとり黙々と沿道を走る健次郎。しかし悲愴感がないのが良い。あたたかい気持ちで応援したくなる雰囲気清々しい読後感。(ごえもん 米五のみそ 会社役員 50代 男性)

『竜馬がゆく』1~5

司馬遼太郎／著 文藝春秋 1988

新装版

目標(志)をもって生きることの大切さを改めて認識させられます。新しいことを始めるとき、マンネリ化した日常を変えたいときに読むと刺激を受けます。(N.Y. 会社員 30代 男性)

『坂の上の雲』1~6

司馬遼太郎／著 文藝春秋 2004
新装版

数ある司馬さんの本の中でビジネスマンに愛読されている坂の上の雲。維新を経て、国家・国民になっていく明治の人たちのたくましさに感動しました。国民を鼓舞する作家・司馬さんが何かを伝えてくれると思います。(黒坂五郎 会社員 40代 男性)

『すべての神様の十月』

小路幸也／著 PHP 研究所 2014

人は誰でも、なんでこんな事になっちゃうんだらうとか考えてしまうことってありますよね。私は、割と八百万神々を信じているので、「あ〜、きっと神様の思召しなのね」なんて思っただけで原因を探らず、ストレスなく生きています。ストレスだらけだ!と思っただけの人、あなたもいろんな神様に助けられていますよ。がんばって!

(イガラシ その他 40代 女性)



『夢のカルテ』

高野和明、阪上仁志／著 角川文庫 2011

相手の夢の中に入って悩みを解決するというファンタジックミステリーだが、その中に純粋な恋物語もあり、久々に一気に読んでしまいました。(みそかな 株式会社 20代 女性)

『マスカレード・ホテル』

東野圭吾／著 集英社 2011

主人公の新田刑事とホテルマンの山岸尚美の随所に出てくるプロフェッショナルな対応や心意気は自分の仕事について考えさせられる場面でした。ホテルに宿泊に来る人物達が本当に色々な人がいて、ホテル業の大変さや素晴らしさを感じ、ホテルコンテニア東京に泊まりに行きたくなる楽しい1冊。

(N.H. 株式会社 30代 男性)

『海賊とよばれた男』上・下

百田尚樹／著 講談社 2012

仲間を信じ、共に前へ向かっていく素晴らしさを教えてくれる本 (S.T. 公務員 50代 女性)

『風が強く吹いている』

三浦しをん／著 新潮社 2006

お正月の箱根駅伝が楽しみになったのはこの本のせいだ! 弱小駅伝部一個性あふれるメンバーが、ゴールを目指してたすきをつなぐ姿に、まるで同じ風を感じているかのような感動が! ぜひおすすめします。

(学校図書館 30代 女性)

『夢をかなえるゾウ』

水野敬也／著 飛鳥新社 2007

読んでいくうちに主人公を通して自分も何かしたいという気持ちになります。自分を変えるためには、人生を変えるためには何が必要なのかを改めて考えさせてくれる本だと思います。

(ハル 米五のみそ 会社員 20代 女性)

『生命とは何か』

シュレディンガー／著

岡小天、鎮目恭夫／訳 岩波文庫 2008

ノーベル賞受賞の物理学者が考える生物というものの物理的な見方は、全く新しい視点を大学時代の私に与えてくれました。研究という道を模索していた私を照らした本のひとつです。(教員 40代 男性)

『ビッグデータの正体 情報の産業革命が世界のすべてを変えろ』

ビクター・マイヤー・ショーンベルガー、ケネス・クキエ／著

斎藤栄一郎／訳 講談社 2013

最近「ビッグデータ」という言葉をよく耳にしますが、そもそも「ビッグデータ」とは何なのか、それが私たちの仕事や生活にどう影響するのかを解説しています。

(T.K. 株式会社 30代 男性)

『英国人記者が見た連合軍戦勝史観の虚妄』

ヘンリー・S. ストックス／著

祥伝社 2013

日本は侵略であり、何もかも悪いことばかりした恥ずべき国だと、学校の歴史等の授業で頭にたたきこまれてきたが、もっとほこりをもって国際社会に対して日本はそんなに悪い国ではないと主張しつづけてよとの主張に納得がいきました。

(K.K. 60代以上 男性)

『創造的進化』

アンリ・ベルクソン／著

合田正人／訳、松井久／訳

ちくま学芸文庫 2010

エラン・ヴィタル(生の弾み)という概念にはまりました

(公務員 40代 女性)

絵本

『きみがおしえてくれた。』

今西乃子／文 加納果林／絵

新日本出版社 2013

涙なしでは読めない絵本。命の儚さ、強さ、優しさ……。改めて教えてくれます。(くるずにゃん 学校 20代 女性)

『むらをすくったかえる』

サトシン／さく 塚本やすし／え

ディスクヴァー・トゥエンティワン 2013

表紙に描かれているかえるは、決意を持って立っています。主人公のかえるは表現が不器用だけど、信念を持って動きます。なかなか認めてもらえないけど、信念を持つこと、そして動くことを後押ししてくれる一冊です。(M.T. 40代 女性)

『よあけ』

ユリー・シュルヴィッツ／作・画

瀬田貞二／訳 福音館書店 1977

大人になって初めて知って読んだ絵本ですが、子供だけのものにするにはもったいない絵本です。

(K.S. 株式会社 40代 男性)



エッセイ・ノンフィクション・読み物

『アンソロジーお弁当。』

阿川佐和子／ほか著

パルコエンタテインメント事業部
2013

お弁当って100人いれば100通り。これを読んでさっそくのり弁を作りました。

(紅生姜 会社員 40代 女性)

『良いおっばい悪いおっばい』

伊藤比呂美／文・イラスト

冬樹社 1985

これに続く育児エッセイも含めて、子育て中の私のバイブルでした。

(みさっちゃんのおかん 公務員
50代 女性)

『ラブレター』

いわさきちひろ／著 講談社

2004

30代前半にこの本に出会いました。「大人になること」の最後の一文「大人というもののはどんなに苦労が多くても、自分のほうから人を愛していける人間になることなんだと思います」がずしんと胸に響きました。

(公務員 30代 女性)

『督促OL修行日記』

榎本まみ／著 文藝春秋 2012

大変なのは自分だけじゃないと痛感できました。

『困ってるひと』

大野更紗／著 ポプラ社 2011

人のハルは共に世間に上手く溶け込めずに成長期をすごすが、互いに「しるし」を見つけて、今の自分を認められて、自然に生きていける立ち位置を見つかることができるというあたたかい話。

人の良い所にスポットをあてて認めることが仕事でも大切。

(紫乃 20代 女性)

『未来のだるまちゃんへ』

かこさとし／著 文藝春秋 2014

「だるまちゃんくてんぐちゃん」などを描かれた絵本作家、かこさとしさんの”こども観”をじっくり味わえる一冊です。

(公務員 30代 女性)

『調理場という戦場』

齊須政雄／著 朝日出版社 2002

すべての職種に通じる本。

(公務員 40代 女性)

『うつを気楽に癒すには・・・』

斎藤茂太／著 青山書籍 2003

毎日忙しくがんばっているあなたへおすすめの一冊です。ストレスフルな毎日、現代病と言われる久しいうつ病、うつに関してのみではなく、ちょっと心が疲れた時に読んでみると、自分の考え方を少し見直してみるきっかけになります。不本意な異動、昇進、降格、人づきあいetc・・・様々な人生のケーススタディが満載です。

(りんだ 会社員 40代 女性)

『お手伝い至上主義でいこう！』

三谷宏治／著 プレジデント社

2011

子育てに必要なのは、「ヒマ、ピンボウ、お手伝い」と言い切る楽しい子育て指南書。

(M.T 40代 女性)



『紙つなげ！彼らが本の紙を造っている』

佐々涼子／著 早川書房 2014

東日本大震災で被災し「工場は死んだ」といわれた日本製紙石巻工場が復活するまでを描いたノンフィクション。何回も泣きました。震災の被害のすさまじさ、従業員の熱さ。ぜひ読んでほしいです。

(会社員 50代 女性)

『敗れざる者たち』

沢木耕太郎／編 文春文庫 1979

6つのスポーツノンフィクションが収められているが、スポーツという枠をこえて「生きる」ことについて考えさせられる本。人生は勝ち負けではない。しかし敗れてしまってはならない。

(A.A エフエム福井 40代 女性)

『死の棘日記』

島尾敏雄／著 新潮社 2005

小説「死の棘」の全編および病妻記諸編に対応する時期の日記。たんたん何をしていくらで買った、食べた、子どもがどうした、妻がこう言った・・・と書いてある「日記」。この本が刊行された頃、「私は何をすれば私か」「一体どの様な状態を生きているというのか」とウツウツと考えていた。でも他人様の日記を読んでみて、人生なんてとるに足らないものの積み重ねでしかないのだな・・・と少し気が楽になった。※島尾さんは日記から妻に浮気がバレてこんな事になったのに何故その後も日記を書き続けたのかとてもとても不思議でならない。

月の船に乗る熊猫(その他 30代 女性)

『旅の人、島の人』 俵万智／著

ハモニカブックス 2014

東日本大震災を経て石垣島へ移住した万智さんの島での暮らし。息子さんが生き生きとなじんでいく姿がキラキラまぶしい。人は一人で生きていくのではない。そんな当たり前前にことにハッと気づかせてくれる。(みつごん 公務員 40代 女性)

『自殺』

末井昭／著 朝日出版社 2013

実母のダイナマイト自殺から、自身のうつ、樹海を捜索している人へのインタビューや、秋田県自殺率の高さを憂う「秋田県の憂鬱」など自殺のデパート的な内容。そして何よりもこの末井氏自身の生き方が興味深い。淡々と語られる文章の中に、心を驚掴みされるような率直な意見があり、一気に読み終えた。講談社エッセイ賞受賞

(O.M ブルーライトカフェ
チーズシュヴァリエ 40代 女性)

『自分の仕事をつくる』

西村佳哲／著 晶文社 2003

「働き方」を変えて、自分の世界を変えたい。「自分の仕事」をしたい。と、強く思わせてくれました。同じ著者の『自分をいかして生きる』もオススメ。

(会社員 30代 女性)

『決断力』

羽生善治／著 角川書店 2005

トップ棋士羽生さんの本には、日常や仕事でのヒントが詰まっています。これを読んでから、「積極的にリスクを負うことは未来のリスクを最小限にする」と私も自分に言い聞かせるようになりました。

(会社員 40代 女性)

『大人はどうして働くの？』

宮本恵理子／編・著

日経BP社 2014

“一番幸せを感じるのは、高い給料をもらうよりも、仲間から「一緒に働けてよかった」と言われるとき。” “人は働くことでさみしさから逃れられる”

7人の著名人が、どうして働くのかを、子ども向け、大人向けに語った本。格言たくさん。自分がどうして働くのか考えてみてください。

(みつごん 公務員 40代 女性)



人生訓

『感情の整理ができる女は、うまくいく』 有川真由美／著

PHP研究所 2011
オススメします。(会社員 40代 女性)

『やる！唐池恒二の夢見る力が「気」をつくる』

唐池恒二／著 かんき出版 2014
JR九州会長の優れ本です。北陸新幹線開業に伴う福井県のあり方の示唆に繋がるのではと思います。
(K.S 株式会社アイメル 会社員 60代 男性)

『スタンフォードの自分を変える教室』

ケリー・マクゴニガル／著
神崎朗子／訳 大和書房 2012
翻訳で少し読みくい面もあるが、自分を変えたい、コントロールしたい人におすすめます。(会社員 30代 女性)

『7つの習慣』

スティーブン・R. コヴィー／著
ジェームス・スキナー／訳
川西茂／訳 キング・ベアー出版 1996

仕事などで他者との関わりが生じる場合、Give&Takeを心がけてきたが、同書で紹介されているWin-Winはこれを越えるものであり、10年前に読んで以来、私の仕事の進め方の基本にしています。
(Y.M 福井県庁 公務員 50代 男性)

『仕事の悩みを引きずらない技術』

笹氣健治／著 PHP研究所 2013
寝る前に、今日あったことを思い出し、モヤモヤしてしまう人におすすめます。
(T 公務員 40代 女性)

『ゴリラの冷や汗』

Team GATHER Project／著
夜間飛行 2014

全く性格の違う4人が1つのことを成し遂げる話です。それぞれの視点で話を進めていくので飽きません。自分はどのタイプなのか周囲の人はどのタイプなのか考えて読むと、人間関係の悩みも軽くなりますよ。
(こうじ (榎米五 会社員 20代 女性)

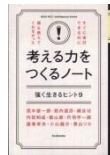


『道をひらく』

松下幸之助／著 PHP研究所 1968
ようやく読みました。ゆるぎない名作。
(公務員 30代 女性)

『考える力をつくるノート』

茂木健一郎/ほか著 講談社 2010
仕事のことなどで脳がカチコチになった時にぜひ読んでほしい一冊。
(公務員 30代 女性)



ちょっと専門的！

『砂糖の世界史』 川北稔／著
岩波書店 1996

世界史にすごくコンプレックスがありましたが、目からウロコ的に近代の歴史の流れが実感できました！
(公務員 40代 女性)

『日本的靈性』 鈴木大拙／著
角川文庫 2010

禅思想に興味のある方におすす。理解しやすくかかれています。
(教員 60代以上 男性)

『化学入門』

原光雄／著 岩波書店 1958
化学が学問として確立されてきた歴史とその方法が著されている。古い本だが、現在でも一読の価値はある。
(自遊人 60代以上 男性)

『少女』

湊かなえ／著 早川書房 2009
双葉文庫 2012

人の死んでいく様子が見たいという、ちょっと異常な感覚の少女2人。初めは違和感があったけど、だんだんと理解できるようになり、のめり込む・・・
一見パラバラな事件が実はすごく密着にからんでいて面白い。
(Denko (榎米五 会社役員 50代 女性)

『楽毅』 1~4

宮城谷昌光／著 新潮社 1997-99
中国戦国時代に「見事に生きるとは」を希求した楽毅。マネジメントの参考にも。
(山ちゃん 公務員 50代 男性)

『ふたつのしるし』

宮下奈都／著 幻冬舎 2014
人のハルは共に世間に上手く溶け込めずに成長期をすごすが、互いに「しるし」を見つけて、今の自分を認められて、自然に生きていける立ち位置を見つかることができるというあたたかい話。
人の良い所にスポットをあてて認めることが仕事でも大切。
(ごえもん 米五のみそ 会社役員 50代 男性)

『本屋さんのダイアナ』

柚木麻子／著 新潮社 2014
「大穴」(と書いてダイアナと読む)金髪美少女と、恵まれた環境で洗練された神崎彩子。その2人を結ぶ「読書」。2人のそれぞれの人生とその成長の物語についていつい応援したくなる本。
(ごえもん 米五のみそ 会社役員 50代 男性)

『キノの旅』

時雨沢惠一／著 電撃文庫 2000
(当館未所蔵)
疲れた私の心を少しの感動と涙と"あとがき"で癒してくれた一冊。
(O.R. 福井大学 20代 男性)

外国文学

『青空のむこう』

アレックス・シアラー／著
金原瑞人／訳 求竜堂 2002
小学生の頃買って、話を理解できず本棚の奥にしまっていた1冊。今読むと、色々な感情が込み上げてきます。強がらないで素直になろう。言いたいことがあるなら、今生きているこの時に伝えよう。大切な人を大切にしよう。そう、改めて感じさせてくれる素敵な1冊です。
(はまちゃん 米五のみそ 会社員 20代 女性)

『ペトロス伯父と「ゴールドバッハの予想』』

アポストロス・ドキアディス／著
酒井武志／訳 早川書房 2001
世紀の難問に取りつかれた数学者の生き様に心打たれました。
(公務員 30代 女性)

『遠い声遠い部屋』

トルーマン・カポーティ／著
河野一郎／訳 新潮文庫 1991
人は思春期でなくとも思い悩むことがあるもの。そんなことは誰にでもあるからとんだか勇気が出る作品。
(公務員 40代 男性)

『鏡は横にひび割れて』

アガサ・クリスティ／著
橋本福夫／訳 ハヤカワ文庫 2004
秋の終わりになると、毎年読んでいます。ミス・マーブルが出てくる作品で、1980年に映画化されている、けっこう昔の小説です。何故、寒くなる時期に読むかという、風邪が流行するから(笑)。自分がやってしまいそううっかりのせいで、他の人がどうなるか・・・。考えるとかかなり怖い。伝染する病気の時、無茶しそうな人にオススメです。
(右の中指が巻き爪★ 30代 女性)